

おはようございます。ようこそ。ライブ配信のスタートが遅くなってしまったことをお詫びします。第二礼拝にご参加くださり大変うれしいです。これは聖書の節毎の学びで、現在「第二テモテ」3章です。まだご覧になっておられない方は、その箇所をお開き下さい。その間に、第一礼拝の「預言・アップ」をご覧になっておられない方にお伝えしておきたいと思います。オンラインで参加されている方に、もう一度「預言・アップデート」について、再度アップデートする必要があります。神の恵みによって、私たちの素晴らしいチームは、新ウェブサイト「jdFarag.org」で、同時にライブ配信を行う機能を確保してくれました。実は今、この様子はJDFarag.orgでライブ配信されており、同時に、YouTubeとFacebookでもライブ配信されています。将来、インスタグラムでやるかもしれません。しかし今話しているのは、これは「預言・アップデート」のみに関してです。「預言・アップデート」をYouTubeや他のソーシャル・メディア・プラットフォームでも公開開始していて、聖書学びやそれらの動画もライブ配信する予定です。通常の時間帯でご視聴いただけますが、「預言・アップデート」については、一旦終了し、続きはJDFarag.orgでご覧いただくように誘導します。実際は、中断のないJDFarag.orgで最初からご覧いただくのをお勧めします。つまり、JDFarag.orgで「預言・アップデート」のライブ配信を最初からご覧になれば、途切れることはありません。しかし、ソーシャルメディアで、ライブ配信をご覧の場合は、主にYouTubeですが、イントロダクションで一旦終了します。おそらく、「預言・アップデート」の概略だけとなります。今後もYouTubeやFacebookなどのソーシャルメディアで毎週同じ時間にライブ配信を続けていきますが、「預言・アップデート」にのみ関しては、完全版ではなく（イントロダクション）を、ハワイ時間の午前9時からの第一礼拝でライブ配信をします。ですから、お願いしたいのは、YouTubeではなく、新サイトJDFarag.orgに直接アクセスしていただき、ライブ配信を視聴いただくことです。無修正の「預言・アップデート」完全版だけでなく、すべての学びも掲載しています。今これは重要なことなので、お聞きください。このサイトを構築していく上で、皆様のご忍耐とお祈りに感謝しています。御心なら、私たちは、多くの人に届くよう、YouTubeや他のソーシャルメディアのプラットフォームにもできるだけ留まるつもりです。しかし、私たちは、決して屈服したり、コンテンツの真実に妥協しません。アカウントが削除されたとしても、それはそれで構いません。私たちは準備ができています。[拍手] ...♪♪♪..最後にそう言ってみたかったのです。激励くださり、ありがとうございます。もう一度言いますが、これは預言アップデートだけに關する事なので、ご注意ください。この第二礼拝（聖書の学び）のライブ配信は、当然のことながら、YouTube上で連続配信します。「預言・アップデート」の内容が検閲されていますので、それが、このようにする理由です。それでは、御言葉に入りましょう。テモテへの手紙第二3章、14節から17節までです。御心なら、今日この章を学び終えます。ここにお越しの方で、可能な方はご起立ください。ご無理でしたら、座ったままで結構です。私が読みますので、ついてきてください。使徒パウロが、聖霊によってテモテに書いてます。14節、

テモテへの手紙第二3章

14けれどもあなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分がだれから学んだかを知っており、

15 また、自分が幼いころから 聖書に親しんできたことも知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する 信仰による救いを受けさせることができます。

16 聖書はすべて神の靈感によるもので、 教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。

17 神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。

ご一緒に祈りましょう。主よ、あなたの御言葉と 今日私たちの前にあるこの箇所感谢您。主よ、聖霊が私たちの意識を集中させ、あなたに、私たちが完全集中できるよう助けてくださらなければ、私たちの心は迷いがちになり、気が散り、みことばに集中出来ず、あなたが、私たちに示そうと望んでおられることを見落としてしまいます。そして、そのことを望む者が、一人としてここにいるとは思いません。主よ、あなたは聖霊によって 私たちを集中させてくださいますように。私たちを捉えてくださることにより今、生きているこの時代、私たちが絶対的に聞く必要のある、あなたからの、いのちへの語りかけ、聖霊の小さな声を聞くことができるよう、私たちの心を捉えてください。主よ、お話し下さい。あなたのしもべが聞いています。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。ご着席ください、ありがとうございます。今日は、クリスチャンである私たちが、今生きているこの混乱した時代に、栄え、生き抜くための希望を持てる 唯一の方法についてお話ししたいと思えます。まったく普通ではなく、混乱しているという考えに 同意してくださいますか？ この言葉を使っても良いですか？ 80年代の言葉とは分かっていますが、マジでヤバイ。だんだん酷くなっています。物事は、ただただ異様です。この章の冒頭で、使徒パウロはテモテに、最後の日の危険な時代、恐ろしい時代、混乱した時代について警告しています。テモテを安定させ、準備させるために、彼はそうしたのです。息子のように彼を愛するが故です。パウロは、テモテをとっても愛していたので、彼に警告しなかったのです。彼は、テモテに備えさせたいと思っていたので、その不吉なリストから始めます。私たちは既にそれを読み、学びました。危険な時代が来る、最後の日を示す 19の兆候です。さて、ここでこの章は終わりですが、聖霊がパウロを導き、次のレベルに持っていく必要があると判断したようです。「その方法」について、言わば、具体的に書くのです。つまり、私たちに力を与えてくれる聖霊の、「その方法」というのは、聖なる御言葉の「何を」をするか、なのです。それが「どのようにして」という、唯一の方法 なのです。神は、私たちが聖なる生活を送るために、聖霊の力を与えてくださいました。

「あなたがたは聖なる者となれ。わたしは聖なる者だからである。」 (第一ペテロ 1:16)

さて、最初に読んだときは「えっ？」と思ったでしょう？「神が聖なる者であるように、私も聖なる者になるのか？」「どうやって私になれるの？」ああ、聖霊です。簡略化しすぎのように 思われるかもしれませんが、これがどのように機能するかです。聖霊=聖なる生活。そういうことです。それが、聖霊の「方法」なのです。私たちが、今なお、ますます悪化していく 危険な時代を生き抜くために。皆さん、そう思いませんか？ パウロが、当時テモテに書いたことは、今の時代の私たちにも、深い意味を持っていると、主張します。それほどまでに大事なものは、クリスチャンが 恐怖と疑念に揺さぶられるのか、または、信仰に強く立ち、動かず、揺るがないのかに、かかっているのです。それが、天秤にかけられています。神が私たちに、強く立って欲しいと 思っておられることを理解してください。彼は、私たちが動かされたり、揺さぶられたりして、御言葉の堅固な基盤から逸脱したり、遠ざかったりするのを望んでおられません。だからこそパウロは、テモテにそのことを書いているのです。この先に、言わば起ころうとしている事を前にして、私たちが、いかに揺ぎ無く、不動に、健全

に、強く、揺さぶられないでいられるか、です。そして、これは聞きたくないかもしれません。私も言いたくありませんが、真実なのは、それが、さらに悪くなるであろう事です。悪化するでしょう。今から携挙の時まで、もっとひどいことになりそうです。最初のもは、14節と15節にあります。一言で言うと「とどまる」がキーワードです。ハイライト、アンダーライン、太字、斜体、黄色の蛍光ハイライト、緑色の蛍光アンダーライン、ブルーの方が好きならブルー。ここでパウロは、テモテに「とどまること」を諭し、その道にとどまって歩むことを強調しています。学んだことに、確信したことに、とどまって、邁進し続けるように。なぜ？ それは彼が、誰から学んだのかを知っていたからです。今思い出してみてください、パウロは、自分の残された日々が数えるほどなの分かっています。イエス・キリストへの信仰のために首をはねられて、殉教するのが時間の問題であり、テモテもそれを知っています。特に、テモテが持っていたと思われる性格は、臆病で内気で、恥ずかしがり屋だったことがわかりましたね。彼は内向的で、外向的ではありませんでした。威圧されやすく、恐怖心を抱きやすい性格だったのかもしれませんが。そして、テモテは、パウロからのこの確信を必要としました。ほとんどパウロが、「テモテ、あなたが私の時間が長くないことを知っているから、この手紙を書いているのですあなたには、これができるのです。」と言っている感じです。「あなたには、こんな事が待ち受けています。その時、わたしはもういないでしょう。でも、もうあなたは、私を必要とはしません。なぜだかわかりますか？ なぜなら、あなたは、子どもの頃から御言葉を聞いて、イエス・キリストへの信仰によって、信仰を通して救いを確信してるからです。あなたがすべきことは、テモテ、起ころうとしていることに立ち向かうには、ただとどまり続け、道を外れず、離れず、動かされず、動揺しないことなのです。」テモテの幼少期について語っているのが興味深いです。パウロは、リステラでテモテと出会いましたが、本文を見る限り、テモテは当時本当に若く、おそらく10代の若者だったと思われます。パウロがテモテに手紙の中で、こう言っています。「若いからといって、誰にも威圧されたり、見下されたりしないように」15歳や16歳くらいと想像してはいけません。もう、運転免許を持っていたはず。おそらく30歳に近い年齢だったと思われますが、特に、パウロがエペソで牧師をしていた教会に、多くの高齢者がいたという事実と照らし合わせれば、十分若いと思われていました。では、なぜパウロはテモテの幼少期を感傷的に語っているのでしょうか？なぜそれを持ち出すのでしょうか？テモテに、しっかりとした土台を思い出させたいから、そう語っているのだと私は信じます。彼は、岩のように堅固です。

「テモテ、あなたが子どもの頃から、母親はユダヤ人で、父親はギリシャ人で、祖母も信仰が強かった。テモテ、あなたは、育ちが良かったのです。あなたは、主の道、主の恐れと戒め、主の御言葉によって育てられたのです。あなたがしなければならないのは、ただそれ続ける（とどまる）だけなのです。シンプルなことです。」言い換えれば、こんな風に言ってもいいですか？より良い言い方が見つかりませんが、「今やってることを続けなさい。」「あなたは素晴らしいことをしています。それを続けなさい。あなたがしなければならないのは、続けること、それだけです。」私たちには問題があります。「私たちに？」「はい。」「何なのか教えてくださいませんか？」「もちろん！あなたが尋ねなくても、とにかく教えます。」皆さんが私に、クリスチャンの人生の中で、最も捉え所のない危険の一つは何か？と聞かれるなら、これは、そのリストのトップですが、すなわち、神の御言葉から迷い、離れてしまい、敢えて言えば、神の御言葉への信頼を失ってしまう事です。それは非常に巧妙です。そうすると、疑うことを知らないクリスチャンが、簡単に敵の餌食になるです。皆さん、

何が悲しいかという、多くのクリスチャンは、これらの終わりの時の、危険で矛盾した状況に包まれた混乱の中で、潰れます。私たちは、それが目の前で起こっているのを見ています。この世の中で起こっているのを見て、最初の反応は、恐れ、混乱してしまうことです。混乱の作者は誰ですか？敵です。敵は混乱させ、責め立ようとしています。それが、残念ながら蔓延していて、そうやってしまうのをお許してください何が起こっているのかをみることで、多くのクリスチャンが、神の聖なる御言葉への信頼を失う原因となっています。頼みますよ！それが、あなたを揺さぶり、神の御言葉の堅固な岩の土台から、あなたを動かしてしまうのです。そして、それは会衆（信者側）の中だけではなく、教壇にもあります。以前ここでフェローシップをしていた方から、第一礼拝の後に、メールを受け取りました。彼女は、本土に引っ越した人なのですが、「預言・アップデート」の後にメールをくださいました。「今日、新しい教会に行ってきました」と言っていました。そして彼女は、「オンラインメンバーがなぜそんなに感謝しているのかがわかりました。」「私たちが今日聞いた説教は、20年前の説教のようでした。それはどうってことなく、無価値でした。」先週も言ったと思いますが、私はクリスチャンを責めているわけではなく、牧師を責めているのです。責任は私たちにあるのですよ。だからこそ、ヤコブはこう書いて警告しているのです。教師の職を望むのは立派なことだが、契約条項を読んだ方がいい。（ヤコブ 3:1 参照）神の御言葉を教えようとするなら、あなたは、その代償を数えた方がいいでしょう。永遠の命と魂を扱うからこそ、無限に高い基準で裁かれるのです。マタイの福音書、7章をご覧ください。24節から27節まで読みます。イエスがお話しになっているのは、まさにこのことについての力強いたとえ話です。

マタイの福音書7章

24 ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。

25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れませんでした。岩の上に土台が据えられていたからです。

しかし、あ、来ましたよ。

26 また、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人にたとえることができます。

27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもその倒れ方はひどいものでした。

ただ倒れただけではありません。その倒れ方は、大変な壊れ方でした。ちょっと待ってください、建て主は二人いるのです。二人とも同じ教会に行き、同じ説教、キリストの御言葉を聞いてたようです。彼らは二人とも家を建てています。二人ともキリストの御言葉を聞きましたでは、立っていた者と、酷く崩れ落ちてしまった者とでは、何が違ったのでしょうか？ ああ、彼らは聞いてましたが、それを心に留めていなかったのです。彼らは、ヤコブの言うように、神の御言葉を聞く者ではあったが、行う者ではなかったのです。（ヤコブ 2:22~23 参照）

イエスは、「彼らは適用しなかった、実践しなかった。」と語っておられます。それが違いだとおっしゃっているのです。それが、天秤にかかるのです。神の御言葉に従って行い、御言葉を適用し、神の御言葉によって生きることです。それが堅固な岩の上に立つことなのです。危険な時代よ、かかってこい！しかも「かかってこい」と言わなくても、もう来てるんですよ！（笑）。返信済（RSVP）で

す。どんな嵐が襲おうとも、嵐は襲いますが、私は動じません。びくともしません。ああ、実際には、皆さん、分かりますか？ ブラインドを開けると、外は嵐です。自分がどれだけ堅固としているか、です。なぜでしょうか？ それは、私が神の御言葉の堅固な土台の上に立っているからです。聞いてください、他にどう言えばいいのかわかりませんが、私はまず第一に、牧師としてではなく、キリストの兄弟として話しています。私のクリスチャン人生の中で、私がクリスチャンとして希望を持つ唯一の方法は牧師ではなく、クリスチャンとして私が希望を持ち、強く立てるのは、唯一、神の御言葉によるのです。神の御言葉！神の御言葉！神の御言葉です！ 私は、これからの時代のクリスチャンが、神の御言葉を知らず、適用せずして、どうやって生き抜いて行けるかがわかりません。もう一步踏み込んで話させてください。「神の御言葉を適用する」とは、こんな感じです。

「私は夜明け前に起きて 叫び求めます。(主よ)」 (詩篇 119 : 147)

「(主よ) 満ち足りた喜びが あなたの御前にあり」 (詩篇 16 : 11)

御言葉に進み、「神よ！今日の私のスケジュールをご覧になりましたか？」「ふざけてるのですか？あなたの予定を立てたのは私ですよ。」「そうですけど、神様、どうしようもありません。」「わかっている、だからそのような予定にしたのです。」「はい、しかし、できません。」「だから、そういうスケジュールにしたのだよ。あなたが私の元に来れるようにね。私なら、できるからです。」「あなたは私が必要ですね？」「はい、あなたを必要としています。神様、他に方法はありません。」「他に方法はありません！」もう一度違った言い方をさせてください、「他に方法はありません。」「あります。方法があります。出来ます。」「どうやって？」「よく聞いてくれました。私は、いのちの言葉、適切に語られた言葉をあなたに与えます。今日の午後2時に予定している深刻な電話に適用されるでしょう。」「今、あなたにそれを与えます。そうすれば、あなたが怖れる電話がかかってきたら、」「因みに、今から証人を用意していいですか？」「今、あなたにそれを与えておきます。そうすれば、あなたは揺さぶられないし、動かされないし、揺るがされません。」「混乱させられることはありません。」「パニックになり混乱している人々から、数え切れない程のメールが、私たちに届いています」「私はこう聞いたのです。」「私はああ聞いたのです。」「彼らはこう言っています。」「あなたは、そう言っています。」「一体どうなっているのでしょうか？あなたが何を聞いておられるのか、誰が何を言っているか、彼らが何を言っているのかは、関係ありません。唯一重要なことは、神が何と仰っているのかです。神は、何と語っておられるのか、です。私も皆さん同様ですから、どうか、「私は牧師だ、君達はこのプログラムに参加する必要がある。」という風に、とられないを願います。私たちは皆、そんなふうになりがちです。嵐が来て、問題が起きて、逆境に陥って、私たちは、これこれしかじかと言います。まず誰かを呼んで、「何があったか聞いたか？」「いや、何があったんだ？なんてことだ、どうするつもりだ？」「わからないよ！」ここで、天国の主、天地創造、全ての創り主を想像します。神は、すべてのものを創造され、私とあなたのために必要なものをすべて用意してくださっています。そして、ここで私たちは、兄弟姉妹に、これこれしかじかと言ってます。あたかも、天国にいる神が、「オーイ、私はどうなのだ？なぜ私を呼ばないのだ？」と仰っておられるようです。「彼らはあなたを助けられないのだよ。あなたと同じように混乱しているだけです。」「むしろ悪化されているのでは？」「何の役にも立ちません。つまり、どうすればいいのですか？」「わからない、どうすればいいのでしょうか？」「これはまずい。」「悪いのはわかっています！お陰様で。」「あなたを呼ぶんじゃなかった。」そうではなくて、神を呼ぶべきだったのです。神は...とこ

ろで、それは独白（一方通行）ではなく、対話なのです。なぜなら、あなたの叫びの声を聴かれ、彼が応答し、語られるのです。主は、主に御言葉で、御言葉を通して、また御言葉の中で、非常に具体的に、直接的に語られます。御言葉の中にと、当然、御言葉が自分の中に入ります。その節を何度も読んだことがあるのに、今日同じ節を読むと、その聖書のページが新たに迫ってきます。まるでその節に、神があなたの名前を挿入したのは昨夜のような気がします。つまり、「感謝します、主よ！ありがとうございます！主よ！」午後2時が来て、想像以上にひどくても、動じません、揺るがされません。私は、神の御言葉への信頼を決して、失うことなく、信頼し続けます。家は決して倒れることはありません、なぜなら土台の岩がしっかりしているからです。2つ目は、16節と17節の「Equip/備える」という言葉です。この2つの節は、神の御言葉の無謬性に関する定番箇所としてよく知られています。しかし、私たちは、ここでまた別の問題があります。それは、読んで、知っていて、引用しているのに、時々、本当に何が書かれているのか見逃してしまうということです。説明させてください。“聖書は神の靈感によるもの”については、ある種の前提条件があります。神の靈感。全て御言葉は神の靈感によって書かれています、そこで止まってははいけません。神の靈感、そうです。間違いなくそうです。しかし、それは有益であると言っています。私たちに役立つ、有益なのです。待ってください。それは、全ての御言葉が神の靈感によるといっても、自分に有益となるとは限らないということです。自動的に、自分の有益になるわけではありません。聖書は、全て神の靈感によるものです。さて、あなたは大きさに尋ねますが、それがあなたの有益になることを望んでいますか？それが利益をもたらすことを望みますか？そう、神の靈感である聖書の全御言葉が、あなたがたに益となり、役立つものであるためには、究極の必要条件があります。実際には、4つあります。パウロは、4つのリストを挙げています。もう一度言いますが宜しければ、“前提条件”と呼びます。それらは、私たちのクリスチャン信仰の上に立つテーブルの、4本の脚です。最初の脚は、翻訳にもよりますが、「教え」、又は「教義」であり、それは前述の、あなたを不動にする、強固な基盤、健全な教義、堅固さ、強さをもたらします。例を示します。今朝、準備をしていたときに主に尋ねていたのですが、主は、私の心に次のように示してくださいました。患難期前携挙の健全な教義は、おそらく私が使うことができる最良の例の一つです。なぜなら、私が今、どっちつかずなら、パニックに陥ります。つまり、私はうろたえます。「私たちは患難時代にいるのでしょうか？もしかしたら、患難期前携挙は、違うのかも。」「もしかしたら、私たちは患難時代に居るのかもしれない。わからない、分かりません。」ヤコブが何と言ってるか知ってますか？お聞き下さい。ヤコブはこう言っています。1章5-8節

「あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。」 -ヤコブの手紙1章5節-

「ただし、（お聞きください。）少しも疑わずに、信じて求めなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。」 -ヤコブの手紙1章6節-

「その人は、主から何かをいただけたらと思っただけではありません。」 -ヤコブの手紙1章7節-

「そういう人は”二心”（興味深いです）を抱く者で、神のこの言葉はどうでしょうか？「歩む道すべてにおいて”心が定まっていな”からです。」 -ヤコブの手紙1章8節-

彼らは健全ではないし、堅実でもないし、教義的にも強くない。だから嵐が来て、彼らは右往左往しています。「わからない、そうかもしれない、そうじゃないかもしれない、わからない、どう思う？」

「わからない。」となります。行ったり来たり、あちらこちらに揺れ動く、“二心”です。考えてみてください。この状況に臨床名があるのは分かっていますが、同時に複数/マルチタスクをこなせないの方がおられますよね?“ガムを噛むのと歩くのが、同時にできない”(二つのことを同時に出来ない)って表現を知ってますね? ご存知のように、できない方もいます。試しに、手拍子をうってみてください。私たちは、出来る人と、そうでない人がいます。(JD 牧師挙手中)だから、マルチタスクに関しては、二重思考なので、間違った方法で、マルチタスクを得意としている人もいます。心の中では“そうかもしれない”とっていて、ここでは反対側の心が“違うかもしれない”とっています。冗談でしょう。繰り返しになりますが、この状態の臨床名があります。しかし神が、そんな風に行ったり来たりするようなクリスチャン生活を願っておられると思いますか? 地上の両親として、お考えください。ご自分の子供たちがそのような、行ったり来たり、不安定で、二心で、混乱し、何をすべきか分からないような生活をするのを望まれますか? いいえ、あなたは彼らが堅固で、健全で、強く、不安定でないのを望んでおられるはず。2つ目。私たちはこのことについて話したくありませんね。「叱責」お~その言葉の響きだけで…その意味が分かるような言葉です。「あなたを叱責する!」それは、ちょっとパンチが効いていますね。「あなたを叱責する…!! ✚✚✚」叱責とはどういう意味でしょうか? それは罪を戒めることです。罪を責めるのではなく、悟らせることです。していること、もしくは、していないことが間違いであると叱責し、悟らせることです。あなたが間違った道を歩んでいるので、叱責を受ける必要があります。ああ、それは正しいように見えるかもしれませんが。

「人の目にはまっすぐに見えるが、その終わりが死となる道がある。」 一箴言 14:12一

ああ、それは「正しいと感じる」かもしれませんが。「どうしてそんなに悪いことが、こんなにも良いことに感じるのでしょうか?」簡単です。それは罪と呼ばれています。ですから、それはあなたが間違った道を歩んでいることへの愛のある叱責なのです。もしあなたがこの道を進み続けるならば、それはあなたにとって良い結果にはならないでしょう。それが叱責であり、3つ目に結びついています。箴言 1章 23節ではこう書かれています。「わたしの叱責に立ち返れ。おまえたちにわたしの霊を注ぎ、…」よくお聞きください。「…わたしのことばを知らせよう。」もしあなたがたに聞く耳があるならば…。「わたしはあなたがたに言葉を与えましょう。わたしが答えを与えます。わたしがあなたの道を示します。あなたはただ向きを変える必要があります。悔い改める必要があります。」あなたは叱責されています。ここで問題です。私たちは叱責を受け入れやすく (rebuke-able) ありません。そんな言葉あるのでしょうか? あるとしましょう。私たちは叱責を受ける側にいるのに、私たちはそれを受け入れません。まあ、私はそれを受け入れないだけなんですけどね。いいでしょう、まあ、やってみました。私はあなたを愛しています。やってみました。

「愛する者が傷つけるのは誠実による。憎む者は多くの口づけでもてなす。」 一箴言 27:6一

言い換えれば、最初はその叱責に憤慨するでしょう。しかし、最終的にはその叱責に感謝することになるでしょう。なぜなら、その人は、あなたを叱責するほどまに気にかけていたからです。私が可哀想だと思うの人は、人生の中で、面と向かって、腹を割って、(これは男性への言葉ですね、すみません。) こう伝えてくれる人がいない人です。「イエスの名においてあなたを叱責するほど、あなたのことを気にかけていますあなたのしていることは間違っています。あなたが歩んでいる道は間違っています。私はあなたを気にかけているので、進んで伝えるのです。なぜなら、私はあなたを本当に

愛しているからです。私たちの関係と友情を危険にさらすことも厭わない、 そうなっても構わない。」最初は、恨まれるかもしれませんが。最終的には、彼らはあなたに感謝するでしょう。因みに、両面作用します。ですから、あなたが愛をもって誰かを叱責し、 真実を伝え、愛をもって真実を話します。彼らは最初はあなたを恨んだり、憎んだり、 ソーシャルメディアであなたを友達解除したり、 フォローを解除したり、ブロックしたりするかもしれません。あなたが最後のメッセージを送る前に。

「ぐ～！」しかし、神の御言葉の上に立ち、 神の御言葉の權威によって、私はお約束します。そして、これは神の御言葉に対する信頼を 失わないという意味です。神の御言葉には、彼らが 「うわあ、あれが私の友達だったんだ！」 と分かるようになる、と書かれています。敵は、ただ私が聞きたいことだけを 教えてくれます敵は口づけし続けます。それは愛ではありません。それは自己愛です。彼らは関係を壊したくないだけです。最初は、あなたはそれに感謝するでしょう。「ああ、わお、ありがとうございます。」口づけして、ね？お世辞を言って「ああ、あなたは良いですね。すべて大丈夫。」最初は、とても感謝するでしょう。実際には、もっと言ってくださいと勧めます。「他にも何か、私について話してくれませんか…？」と。最初は感謝するでしょうが、しかし、最終的には恨むことになります。「なぜ私に教えてくれなかったの？ なぜ私に真実を話さなかったのですか？」「どうして私が聞きたいことだけを話して、 私が聞く必要のあることは話さなかったのですか？」「私はそれを聞く必要があったのです！」「もしあなたが、本当に私のことを気にかけていたなら、私を叱責したはずです！」繰り返しますが、これは3つ目の脚に繋がります。「矯正」です。そして矯正とは、叱責からの意図された結果です。それは、ある人が軌道変更し、修正し、その後、それを正して、償いをし、進む方向を変えるということです。「私は道を間違えている。引き返して、進む方向を正す必要がある。」この話を聞いたことがある人もおられるかもしれませんが、海を運行する巨大なオーシャンライナーの話です。船長は前方に光を見ていて、無線連絡が流れます。「進路を変更する必要があります。」「我々は今、あなたの目の前にいる。」「あなたが方向を変更しないなら、我々は衝突するだろう。」「方向を変更してください。」こう返答が返ってくるとします。「いいえ。そちらが変えたらどうか？ 私は進路を変えるつもりはありません。あなたが変えればよいのだ。」返答は、「進路変更はしない。これは俺の肩書きだ。いいか、これは大きな船なんだ！そっちが進路変更すべきだ！」そして返ってきた返答は、「いや、あなたが進路を変更するのです。なぜなら、こちらは灯台ですから。」これについてももう少し、聖霊に時間を取ってもらいましょう。これについて考えてみてください。それは神の御言葉、光、岩の堅固な土台です。そして、私たちはここにいます。私たちは衝突コースにいて、私たちの人生は崩壊していくのです。そして、私たちは反抗的で、傲慢で、頑固で、うなじが硬く…、もっと追加できますが、しません。「私は進路を変えないぞ！」これもまた、叱責と同じように、それが ” 矯正を受け入れる/ correctable” (修正可能) を前提としています。確かに、この単語はあります。この言葉はありますか？ということ、これはどうでしょうか？ ” teachable/ 教えを受け入れやすい。” おお…愛情を込めて「牧師の書簡」と呼ばれるもので、テモテとテトスがその一つです。使徒パウロは長老の資格とは、 ”教えることができる /able to teach ”と訳されています。これは、そういう意味ではありません。こういう意味です。「教えることができる/ able to teach」ではなく、「教えを受け入れる/ teachable」本土では、スタッフとして雇う人の頭文字をとって、「FATの人を探しています。」(FAT/太い) —JD 挙手—Fは faithful/ 忠実、Aは available/ 可能、Tは teachable /教えを受け入れるという意味です。もし彼らが、忠実

でなければ、可能でなければ、そして確実に教えを受け入れられる人でなければ、上手いきません。例を挙げて説明してみましょう。私たちが御言葉を調べる時、御言葉が私たちを探ります。そして問題が起こるのは、御言葉が私たちを裁くのではなく、私たちが御言葉を裁くときです。御言葉が私たちを正し、御言葉が私たちに教え、御言葉が私たちを叱責するのではない時に。ある聖句に出くわした時、どんなことが起こるのでしょうか？ つまり…「これは、あなただ！」（人を指さして）指差して、すみません。私は…私が何を言いたいかわかりますか？ それか、私たちがやっていることです。「誰々には、この節が必要ですね、これはあの人のため…」おっと、どうやら心に響かれましたか？ それはまるで説教みたいです。良い教えを聞くと、「うわー、本当に良かった！」となります。「誰々が聞く必要がある。リンクを送ろうっと。」—(笑)—待って、待って、待ってください。それはあなたのためです。それはあなたへのものです。箴言の中ではどうでしょうか？ 皆さん、箴言を読んでいますか？ 対照的なことばが出てきます。私たちの箴言の学びは、とても充実していました。しかし、そこには、義と悪を対比させている箇所があります。こう書かれています。「義人はこうします。しかし、悪人はこうする！」そして、私たちはどうしますか？「そうだ！彼らは邪悪だ！」「義人とは、分かります。」ありがとうございます、どうもありがとうございます。待って、待って、待って、待って！あなたが邪悪な人です！神の御言葉に、あなたを裁いていただきます！あなたが御言葉を裁いてはいけません！御言葉にあなたを探ってもらいましょう。「私の心を探ってください、主よ。あなたを愛することから、あなたに耳を傾けることから、あなたを知ることから私を遠ざけている取り除くべきものがあるかどうかを見てください。」箴言12章1節です。私はこの箴言が大好きです。「訓戒を愛する人は知識を愛する。叱責を憎む者は”間抜け者”。」おお、調べてみてください。そんな目で私を見ないで下さい。そう書かれています。「あなたは間抜け者/愚か者だ。」はい、もう言いませんが、その言葉を言うと、とても気分がいいです。これがどういう意味かわかりますか？あなたは正されるのが好きではないですか？誰かが正そうとすると、あなたは、「私が？あなたはどうなんですか？」「自分のことは棚に上げて！」あなたは、間抜け者です！さて、これを言うのは最後です。あなたが訓戒を愛し、知識を愛するなら、それは知恵です。しかし、それを嫌うの者は愚か者です。ええ、はい、私はそれを聞きたくありません。しかし、それを聞く必要があるのです。聞く必要があります。4つ目、「訓練」や「指導」これは、神の道、主の道に沿うように、正しい道に訓戒され、従うという考えを伴います。それでは、ここで4つすべてを素早くとって、私たちが立つテーブルの4脚にまとめてみましょう。教義的に健全であり、叱責を受け入れることができ、正されることを受け入れ、訓練されることを受け入れること。もし私に上記すべてが備わっているなら…、「ハハハ、かかってこい！」です。使徒パウロが言ったことを考えます。ルカは使徒20章に記録しています。「私を揺さぶるものは何もない。」（自分の命は少しも惜しいとは思いません。）—使徒の働き20:24参照—私を揺さぶるものは何もない。もう一度、修辭的にこの質問をさせて下さい。「あなたは、あなたのクリスチャン人生の中で、揺るぎない、大胆不敵さ（恐れのない心）をもつことを望んでおられますか？」それはあなたに可能ですが、現実のものとするには、これら4つの前提条件が必要です。これらの一つでも欠けているなら、あなたの装備は不足します。パウロは、もしこの4つがすべて揃っているなら、完全に備えられていると言っています。あなたが必要とする装備が何であれ、手に入ります。あなたが簡単な作業をしようとしていて、適切な道具がない場合、どうなるのでしょうか？私にはよくあることです。つまり、それは私だけなのではないかと、

プラスドライバーが必要なのに、 マイナスドライバーしか見つからないことは…？ 皆さんにもそういうことありますか？ それとも、ソケットはどうですか？ あなたが必要なサイズのレンチは？ あなたはそれを見つけることが出来ますか？ ーいいえ。ああ、他のものは何でもあるのに、しかし…！ あのソケットセット用は？ あなたが必要としているものは…ありません。なので、あなたは作業が出来ません。そして、モンキーレンチを出して分かったことですが、もしかしたら、こうなるのは私だけかもしれません。おそらくそうでしょう。私はこれを非常に個人的に受け取っています。モンキーレンチは、その大きさには到底及びません。そうなった時には、がっかりして、赤ん坊のように泣いてしまうんです。あなたにはその装備、道具が不足しているのです。それがパウロが語っていることなのです。ですから、あなたはすべての良い働きのために、完全に備えたいですか？ それならこれが、前提条件です。これが、あなたがそれを行うために必要なものです。さて、締めくくります。一つだけ質問をしたいと思います。それを尋ねるのは、主の御前で、私は自分自身に質問を投げかけています。目の前に待ち受ける日々が、すべてが狂っているよう思えます。「預言・アップデート”で” 決断” に関して、お話ししたように。今なお多くの方が、決断を下さなければならない状況に直面しています。誰かの仕事や生活を犠牲にする可能性のある決断です。全てを犠牲にしてしまうかもしれません、狼狽と恐怖と混乱に満ちています。どうすればいいんでしょう。何が起こるのでしょうか？ さて、（この後）質問に戻るつもりですが…しかし、聖書全体には、神は何があっても 必ず備えてくださるという約束が 次から次へと語られています。だからもし、私の土台が神のお約束と神の御言葉にあるならば…、 それを、私たちが神の御言葉と呼ぶときに、それが何を意味しているのか、時々見逃してしまうことがあると思います。それは「神の御言葉」ですよ？ それは、神が、彼の御言葉を与えてくださったということです。神は、私たちに彼の御言葉を与えてくださったのです。彼は、彼の御言葉を破ることは出来ません。神は、彼のお約束を覆すことは出来ません。それが、神の御言葉です。理にかなっていますか？ それは神の言葉、神の御言葉です。神は私たちに 神の御言葉を与えてくださったのです。彼には御出来になりません。それは、彼がしないのではなく、” できない” のです！ それは彼のご性質ではありません。良く聞いてください。神は私に、彼の御言葉を与えてくれました。神は、彼の民がパンを乞うことは決してなく、 何があっても必ず与えてくださると、 聖句を通して、何度も約束してくださっています。もしあなたにそれが必要であるならば、彼はそれを与えてくださいます。保証されています！間違いありません！（take it to the bank. ※直訳：銀行に持って行く）実際には、今すぐ銀行に持って行かないでくださいね。一笑一 私はこれを、預言・アップデートでは共有しましたが、共有した方が良いかもしれません。銀行に入ったら…、有難いことに、今は銀行へ行かなくても良い方法を、息子がアプリで教えてくれました。ただ、小切手の写真を撮ればいいんです。テクノロジーを愛さなければなりません。彼ら（銀行）は、私の額と手を スキャンしなければなりませんでした。すみません、余計な話でした。私は知らなかったので、銀行に入ると男性が立っていて、「お客様、こちらに来てください」と言い、私は「え？」という感じです。「スキャナーの前にお立ちください。」 私は「何っ?!」 あ～そちらの皆さん、私が利用しているのと同じ銀行ですね。そこで、私はこういう風に、こんな物体の前に立ち、私の顔をスキャンして、体温を測るんです。私は「冗談でしょ？」 これって、黙示録 13 章ですよ。「額をスキャンして、体温を測らない限り、取引や売買はできないということですか？」 「はい。」ありがたいことに体温は正常で、緑の Go サインが出たので、彼は「お客様、どうぞ列に入ってお並びください。」 と言ってくれ

ました。(あざ笑うように) “サインは緑、私は列に並ぶ。” — (笑) — もう締めくくります。質問がありますので、少しご辛抱ください。私はそんなことでは、揺るがされません。なぜなら、神の御言葉の堅固な土台があるからです。私は盲目にはなっていません。私はそれがゆえに、混乱しません。私は動かされず、揺さぶられもしません。実際その逆です。なぜなら、これはまさに 神の御言葉通りに起こっていることだからです。こんな言い方をして良いなら、殆ど滑稽な言い方ですが、皆さん、こんな言い方はしないでしょ、しかし、彼らにこう言えるでしょう。「おお、これは面白い。聖書に、こうなると、書かれているのをご存じでしたか?」「ほんの始まりにすぎませんが。なぜなら、長くは続きませんから。まあ、私はもういなくなるからね。君はもしかしたら… 私には、あなたにお話ししたい、素晴らしい” 生命保険” の指針があるのですが…。でも、私はここにはいないでしょうが、でも、あなたがここにいるなら、そのうち、あなたはここに立って、こう言うでしょう。「入る前に、” 額か手をスキャンする必要があります” と。」私は揺さぶられることはありません。実際、ワクワクします。なぜなら、神の御言葉は真実だからです。

「真理はあなたがたを自由にします。」 —ヨハネ福音書 8:32—

「子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由になるのです。」 —ヨハネ福音書 8:36—

お立ちください。祈りましょう。ありがとうございます。皆さんは、このすべてを通して 私に忍耐してくださっているのですから、天に宝を積んでおられますよ。お父様、本当にありがとうございます。主よ、ここからはあなたが引き継いでください。そして私たちは、あなたの御言葉を実践するビルダーのようになりたいと願っています。そうすることで、嵐が襲ってくる時に、私たちは崩れ落ちません。イエスの名において、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7